

2016 年度活動報告 CJP 授業：レギュラープレ 1 A

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本科目は、日本語学習経験の全くない現代日本専攻の履修者に対して、日本語学習の機会を提供するために選択科目として開設されたもので、授業時間数も週2コマ（1コマ90分）と非常に少ない。そのため、本授業では、ごく基本的なあいさつや表現を使って、学習者が留学生活の中で経験すると思われるいくつかの状況において、日本語で簡単な会話ができるようになることを目標とした。そこで、主教材は『NIHONGO FUN&EASY』を使用することにした。また、本授業を通して日本語を学ぶことや日本語でコミュニケーションすることの楽しさを感じてもらい、本格的な日本語学習へ進む第一歩に繋がればという思いもあり、その点にも留意しつつ授業を行った。本科目の履修前提条件として、ひらがな・カタカナの読み書きは必須とされており、そのため、全授業を通して、板書、教材等の表記は日本語とローマ字併記で対応した。

2. 授業内容

今年度秋学期は、週2コマ（火水）で『NIHONGO FUN&EASY』を1課進めるというペースで授業を行った。1コマ目に、基本的な語彙・フレーズの導入を行い、その後、フレーズレベルでの発話練習を行った。初学者14名という人数の多いクラスであったため、日本人学生のLA（ラーニングアシスタント）2名を採用し、毎課、教員を含めた3名で発音や使い方の確認に当たった。2コマ目には、まず語彙とフレーズを復習しクイズによる確認を行った上で、談話レベルでの発話練習とロールプレイを行った。また1課の学習が終わるごとに、Hands-on Learning Task という名で、学んだ表現を実際に教室外で使ってみるタスクを課し、運用力の向上を図った。学期の最後には、グループによるスキットプレゼンテーションを課し、授業で学んだ語彙や表現を使ってスキットを作り、グループごとに発表する機会を設けた。

3. 成果と今後の課題

アンケートでは概ね高評価を得ることができ、日本語学習を継続していくとの声も多かった。一方、フレーズ中心の本授業に対して、詳しい文法解説を望む声も上がった。授業中には、教室外で見聞きした日本語についての質問も多く、本授業に「日本語に関して（英語で質問して）解決する場」としての役割を期待していることが伺われた。次年度以降、体系的な言語知識を提供する機会を増やす方向で改善していきたい。